

令和元年度 事業報告書

I はじめに

令和元年度は、5月からの新たな時代の幕開けによる、事業運営スタートとなりました。

我が国の社会経済情勢をふりかえると、海外経済の減速等を背景に外需が弱いものの、雇用・所得環境の改善等により、内需を中心に緩やかな回復傾向にありました。

令和元年10月に実施された消費税率の引上げにあたり、経済の回復基調に影響を及ぼさないといった観点から、軽減税率の実施や臨時・特別の措置など各種の対応策が実施されています。

一方では、緩やかな景気の回復が続くことが期待されたものの、消費税率引上げ後の経済動向を引き続き注視するとともに、米中貿易摩擦など海外発の下方リスクによる影響に備える必要がありました。

政府は災害からの復旧・復興と安全・安心の確保、経済の下振れリスクを乗り越えようとする企業・事業者への重点支援、東京オリンピック・パラリンピック後を見据え、経済活力の維持・向上等を柱として総合経済対策を策定しました。この政策に基づき、機動的かつ万全の対策を講じ、当面の需要喚起にとどまらず、民需主導の持続的な経済成長の実現につなげていくこととしていました。

こうした中、令和元（2019）年12月以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が中国湖北省武漢市を中心に発生し、短期間で全世界に広がりました。令和2（2020）年3月末時点では世界171の国・地域に広がり、感染者は約32万5千人、死者は1万4千人に達しました。日本国内でも感染者は約1,200人に上り、死者は40名を超えてしまいました。このウイルスは、現在のところ不明瞭な部分も多く、一日も早いワクチン開発に向け、世界中の研究機関が様々な調査・研究に取り組んでいます。

令和2（2020）年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される予定でしたが、3月に入り世界保健機関（WHO）がパンデミック（世界的大流行）を表明すると状況は変わり、東京オリンピック・パラリンピックは延期となり、令和3（2021）年7月に延期したうえで開催することとなりました。

令和元年度は1月以降、予期せぬ事態により、日本国内のみならず世界的規模で社会経済活動が大打撃を受け、例年とは大きく異なる年度末となりました。

公益社団法人として9年目を迎えた中野区シルバー人材センター（以下「センター」という）は、事業の基軸と位置付けている従来からの請負事業と、平成29年度から開始した新規事業である、シルバー派遣事業に取り組みました。その結果、請負事業については、企業等の契約金額はほぼ横ばい、家庭や自主事業の契約金額は落ち込んだものの、公共契約の広報誌配布業務の契約金額増などにより、会員数が減少傾向にある厳しい状況ではありましたが、昨年度を上回る実績をあげることができました。

シルバー派遣事業については、3年目を迎えた令和元年度は12件の契約でスタートし、最終的には14件の契約となり、昨年度を上回る実績をあげることができました。

請負事業の契約金額は6億8千9百万円余で、昨年度との比較で5.8%増となりました。

一方、シルバー派遣事業の契約金額は3千94万円余で、昨年度との比較で7.5%増

と大きく上回りました。この結果を受け、請負事業とシルバー派遣事業の合計契約金額は7億2千万円余となり、計画目標であった6億8千5百万円を上回り達成することができました。

受託件数〔請負事業のみ〕につきましては14,766件で、4.1%減となり計画目標を上回ることができませんでした。

就業状況〔請負事業のみ〕については、1,425人の会員に対し、1,158人(延べ40,804人)が就業し、就業率は81.3%になりました。

会員の入退会については、年間入会者数は昨年度に比べ48人下回り、年間退会者数は昨年度より13人少なかったですが、結果的に令和元年度末には、会員数が前年度比で44人(3.0%)減少となりました。なお、退会の主な理由は、健康、加齢及び会費未納によるものでした。

当センターとしては、組織の根幹ともいえる会員が年々減少傾向にあったことから、会員の増強及び受注拡大を目的に、昨年に引き続き会員募集に特化したチラシを作成し、センターの全体的なPRチラシとあわせて84名の協力会員により各戸配布しました。他にも区民対象の各種講習会の開催、各種ボランティア活動に積極的に参加しPRに努めました。また、令和元年度は当センターの創立40周年を迎えたため、過去8回開催してきました「シルバーまつり」を「創立40周年 記念式典・声楽コンサート」に拡大して開催しました。他にも、中野区のイベント等への参加、区役所1階ロビーでのPR活動、新たに南台商店街「みなみ台夢ひろば」及び中野ブロードウェイ地下商店街「プチパリ」でのPR活動を行うなど、昨年度にも増してセンターのPRに努めました。

重点事業である家事援助・子育て支援・福祉サービス事業については、昨年度に引き続き区内をブロックに分け、会員コーディネーターを配置して、地域の多様なニーズにきめ細かく対応するよう努めました。

また、平成29年4月より本格実施しました「介護予防・生活支援サービス事業」も3年目を迎え、件数増減の変動があったものの、最終的には19件の契約となり、要支援対象に該当する区民の皆さんの、お役に立つことができました。

一方、単発的な作業を担う「暮らしのサポート隊」は、アパート等の空き部屋清掃のほか、植木の水遣り・荷物整理・片付けや家具移動など多岐にわたる様々な注文に対して、迅速な対応と丁寧な仕事に努めましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、昨年度を10.9%下回る1千万円余の実績となりました。

家事援助・子育て支援・福祉サービス事業の全体的な実績としては、就業会員不足の状況が続く中、事務局や家事援助コーディネーターが、会員と綿密な連絡・調整を行い、可能な限り新規受注や既存契約のお客様対応に努めましたが、家庭内での業務のため、一早くウイルス感染症の影響を受けたこともあり、7千294万円余と昨年を下回る実績となりました。

II 事業推進の概要

令和元年度においても、センターを取り巻く環境は引き続き厳しい状況でしたが、社会参加の意欲ある健康な高齢者に対し、地域社会と連携を保ちながら、その希望・知識及び経験に応じた就業ならびに、社会奉仕等の活動機会を通じ活力ある地域社会づくりに寄与するため、次の基本方針のもと積極的に事業を実施しました。

- (1) 高齢者の就業についての普及、啓発活動の推進
- (2) 高齢者に適した就業機会の確保・提供

- (3) 高齢者の就業についての知識・技能向上のための講習等の実施
- (4) 安全就業についての啓発・指導の徹底及び安全就業対策の推進
- (5) 会員の入会促進、会員相互の連携及び社会奉仕活動の推進
- (6) 多様な就業機会確保のためシルバー派遣事業を拡充

Ⅲ 事業実施報告

高齢者の豊かな経験と知識を生かした質の高いサービスの提供に努めるとともに、区民の暮らしに身近な就業を通じて地域社会に貢献するなど、「自主・自立」「共働・共助」の理念に基づき、次の事業を実施しました。

1 事業実績〔定款第4条1号事業〕

【請負事業】

① 事業実績	689,506,655円
② 就業延人員	154,268人日
③ 受託件数	14,766件

【シルバー派遣事業】

① 事業実績	30,941,232円
② 就業延人員	6,897人日
③ 受託件数	159件

【請負事業とシルバー派遣事業の合計】

① 事業実績	720,447,887円
② 就業延人員	161,165人日
③ 受託件数	14,925件

2 広報・宣伝活動の推進〔定款第4条1号事業〕

(1) 会員の動態について

① 令和元年度末会員数	1,425人
② 入退会者数	入会者 164人 / 退会者 208人

(2) 事業の広報・宣伝活動の推進

- ① 機関紙を発行し、センターの活動を幅広く掲載し、会員及び関係方面に配布して事業のPRに努めました。

◇機関紙「シルバーなかの」発行（年4回）

- ・第139号（4月30日号）
- ・第140号（7月31日号）
- ・第141号（10月31日号）
- ・第142号（1月31日号）

◇機関紙「シルバー速報」発行（年8回）

- ・第355号（5月31日号）
- ・第356号（6月30日号）
- ・第357号（8月31日号）
- ・第358号（9月30日号）
- ・第359号（11月30日号）
- ・第360号（12月31日号）
- ・第361号（2月29日号）
- ・第362号（3月31日号）

- ② スマートフォンや携帯電話等からアクセスしても、快適に閲覧できる当センターのホームページを有効に活用して、幅広い世代の方々に事業内容等の情報を発信し、会員の加入促進及び受注の拡大を図りました。

また、センターへの興味・関心を高めることを目的に、ホームページ内の「写真・動画ギャラリー」を「イベント・地域活動」にリニューアルし、センターが参加した各種イベント・地域活動等を掲載して、会員の加入促進及び受注の拡大を図りました。

- ③ 令和元年度中に区内の家庭に対し、「案内・会員募集チラシ」を7万枚配布し、会員の加入促進や受注の拡大に努めました。
- ④ マンション等の清掃業務及び広報誌の配布を担う会員数が少ないため、この職種に特化したチラシを、3名の協力会員により、地域を限定して2,500枚配布し会員の加入促進に努めました。
- ⑤ 会員増強を目的として、令和2年2月に南中野区民活動センターにおいて、出張形式による入会登録説明会を開催し、参加者10名のうち8名の会員入会につなげました。
- ⑥ 就業や各種会議を通じて事業の周知を図り、会員自身の口コミ等によるPR活動により、受注の拡大・会員の加入促進に努めました。
- ⑦ 区民を対象に「パソコン」「ふすま・障子はり」等の講習会を開催し、センター事業のPRに努めました。
- ⑧ ケーブルテレビのジェイコム中野を通じ、事業活動時やイベント時におけるセンター情報を積極的に提供し、映像による広報に努めました。
- ⑨ 令和元年10月「創立40周年 記念式典・声楽コンサート」をなかのZERO大ホールにて開催し、センター事業のPRに努めました。

当日は、満席となる1,300名の方々にご来場いただきました。第一部の記念式典では来賓の方々にご祝辞をいただきました。引き続き第二部では、地域への文化的貢献として地元の「大妻中野中学校・高等学校合唱部」と、毎年、シルバーまつりににご協力いただいております「武蔵野音楽大学室内合唱団」に加えて、今回は記念行事のため、同大学の卒業生でプロの「テノール・ソプラノ歌手」の皆さんによる声楽コンサートを催し、来場された多くの方々から称賛の声をいただきました。

また、事前PRのため、中野区町会連合会の協力を得て、町会・自治会の掲示板に約1,800枚のPRチラシを掲出していただきました。

最後に、令和2年1月に「創立40周年記念誌」を発行し、記念事業は終了しました。

- ⑩ センターの普及強調月間にあたる令和元年11月に「中野エコフェア2019」、11月には「なかのまちめぐり博覧会」など、中野区主催のイベントに積極的に参加し、PR用チラシやリーフレット等を配布しました。また、昨年引き続き、子ども向けの景品が当たる輪投げゲーム等を通じて、センター事業への理解とPRに努めました。
- ⑪ 令和元年7月に2日間にわたり、中野区役所1階ロビーにてセンターのチラシ、ポスター、パネル展示によるPR活動を行いました。
- ⑫ 新たな試みとして、令和元年12月に南台商店街の「みなみ台夢ひろば」、中野ブロードウェイ地下商店街の「プチパリ」にて、PR用チラシやポケットティッシュ等の配布、協力会員による折り紙教室を開催しセンターのPRに努めました。

- ⑬ 中野区の発行する「生涯学習・スポーツガイドブック2019」に記事（講習会、各種講座）を掲載し、センター事業のPRに努めました。
- ⑭ なかの生涯学習大学のカリキュラム講座において、事務局長が講師を務め、会員増強を目的としたPRも含め講義しました。
- ⑮ 令和2年2月に東京しごと財団主催イベント「これからシルバー応援フェスタ」に第3ブロックの他センターと参加し、新規会員の獲得に努めました。
- ⑯ 主に女性会員の入会促進を目的に、中野区を中心に近隣区を含め約14万部配布されている「リビング」（サンケイリビング新聞社発行）に、センター広告を4月・9月・10月の中野特集号等に掲載しPRに努めました。
- ⑰ 中野区役所1階ロビーに設置されている自治体情報案内図（シティナビタ）及び中野区提供の就労・求人支援サイトにセンター広告を掲載し、センター事業のPRに努めました。
- ⑱ 「なかの区報」にセンターの会員募集広告を掲載し、新規会員の獲得に努めました。
- ⑲ 郵便局の窓口用封筒にセンターの広告を掲載し、PRに努めました。
- ⑳ 友愛クラブの会報にセンターの広告を掲載し、PRに努めました。
- ㉑ 新たな試みとして、令和2年1月及び3月に区内の新聞購読者を対象に、会員募集チラシ約85,000枚の折込広告により、会員の加入促進や受注の拡大に努めました。

3 しごとの開拓と提供〔定款第4条1号事業〕

(1) 就業確保の取組み

- ① 事業所、一般家庭、官公庁に対し、センター事業のPR活動を行い、就業機会の開拓を行いました。
- ② センターの受託可能な仕事をわかりやすくセンターのホームページ等で情報を提供するとともに、一般家庭を中心にチラシやリーフレット等を配布し受注の開拓に努めました。
- ③ 江古田分室で行っている「手内職作業」の仕事を安定的に確保するため、事業者等へ声がけをして受注の開拓を図りました。
- ④ 保育園での保育補助業務等の受注を目的に、新規開設予定の保育園に派遣事業のPR活動を行い、就業機会の開拓に努めました。
- ⑤ 「シルバー速報」「シルバーなかの」に仕事情報を掲載するとともに、ホームページの活用等により仕事情報の共有化と就業の促進を図りました。
- ⑥ 就業に関する情報収集のため会員懇談会を開催しました。（14班×2回）
 - ◇第1回 令和元年5月30日～6月19日（243名出席）
 - ◇第2回 令和元年11月7日～12月16日（236名出席）

(2) 家庭・子育て事業の推進

- ① 家事援助・子育て支援・福祉サービス事業推進のため、地域の関係機関・団体と連携を図り、それぞれのニーズに沿ったきめ細かなサービスの提供に努めました。
- ② 中野区内をブロックに分け、それぞれに会員コーディネーターを配置し、迅速で丁寧な受注対応を目指しました。また、会員コーディネーターを中心に懇談会を開催し、会員同士の信頼を深め、事業の拡大に努めました。

- ③ 子育て支援サービスでは、産前・産後の支援をはじめ、塾や習い事の送迎も増え、子育てに対する相談も多く寄せられました。これに対し、子育ての相談窓口を充実するとともに、コーディネーターと会員との情報共有化を図り、豊かな経験と知識を生かし、地域の子育てを支援しました。
- ④ 『やさしさと笑顔で暮らしのお手伝い』のスローガンのもとに、センターらしいきめ細やかなサービスの提供に努めました。また、就業会員に「就業ノート」を配付し、お客様とのコミュニケーション等に活用することにより、仕事を円滑に進めることができました。その結果、家事援助・子育て支援サービスの受注拡大につながりました。
- ⑤ 良質なサービスを提供できるように、家事援助・子育て支援・福祉サービスに関する各種研修・講習会を実施しました。
- ⑥ 介護保険制度の改正に伴い、平成29年4月から「介護予防・生活支援サービス事業」が本格実施され、令和元年度は19件の契約実績でした。事務局と家事援助コーディネーターが相互に連絡・協力・調整しながら事業をすすめた結果、会員の就業機会を確保し、円滑に業務を遂行することができました。
- ⑦ 家事援助コーディネーターの経験を後継者に受継ぐため、実践に則したコーディネーターマニュアルを作成しました。
- ⑧ 家事援助サービスにおける傷害・賠償事故が多発したため、KY（危険予知）カードを作成し、全就業会員に配布しました。

(3) 職群班活動の充実と人材育成について

職群班活動については、仕事別グループの組織化を推進するとともに、職群班会議を開催し、会員の技能レベルアップを図り、サービスの質的向上を目指しました。

後継者の育成が喫緊の課題でした表具班については、入会時に表具を希望する会員に積極的に声をかけたことにより、新たな会員を獲得することができました。

また、植木班についても、後継者の育成が課題でしたが、ベテラン会員の指導による研修を実施するなど、後継者の育成に努めました。

(4) 暮らしのサポート隊事業の推進

- ① チラシを配布するなど事業のPRに努めるとともに、会員の就業参加を促進し、会員の経験や知識を活用した仕事の拡大に努めました。
- ② 事業のサービス力向上のため、暮らしのサポート隊会議等を開催し会員同士の情報共有を図りました。
また、事業推進コーディネーターによる作業現場での会員研修を、積極的に実施し、技術・知識の向上に努めました。
- ③ 暮らしのサポート隊の充実を図るべく、希望する会員に対して新人研修を実施し、会員数の確保や後継者の育成に努めました。

(5) 自主事業の拡充

小・中学生の学習教室については、講師会員の方々の熱心な指導が口コミで広がりを見せ、その結果、生徒数が増え、昨年度を上回る実績額となりました。

パソコン教室については、新たにスマホ講座を開講し、事業拡大や受講生の確保に努めましたが、実績額は昨年度を下回る結果となりました。

英会話教室については、ウイルス感染症による休講が大きく影響し、実績額は昨年度を下回りました。

暮らしの書道については、受講生の入れ替りはあったものの、昨年度を上回る実績をあげることができました。

その他、万葉集講座は長年通っていただいている受講生が多く、引き続き根強い人気がありました。また新元号が万葉集の作品から選定された影響もあり、実績額は昨年度を上回りました。

(6) 事務系職種の仕事拡充

会員の希望、保有する資格・能力・技術等を踏まえた上で、公共施設の管理や事務系職場の開拓に努めました。事務系の就業拡大は厳しい分野ですが、引き続き公共施設の受付業務等を受注できるよう努めます。

(7) 就業機会の提供

① 令和元年度の就業機会提供結果

【請負事業】

年 度	年度末 会員数	就業実人員	就業率	受託件数	就業延日数	契約金額
令和元年度	1,425人	1,158人	81.3%	14,766件	154,268日	689,506,655円
30年度	1,469人	1,194人	81.3%	15,404件	156,583日	651,909,870円
増・減(△)	△44人	△36人	—	△638件	△2,315日	37,596,785円

【シルバー派遣事業】

年 度	年度末 派遣登録会員数	就業実人員	就業率	受注件数	就業延日数	契約金額
令和元年度	59人	62人	105.1%	31件	6,897日	30,941,232円
30年度	64人	60人	93.8%	24件	5,705日	28,789,070円
増・減(△)	△5人	2人	11.3%	7件	1,192日	2,152,162円

② 自主事業の実施状況

会員の知識や能力を生かすための自主事業を積極的に実施しました。

ア. 自転車リサイクル事業については、「なかの区報」及び区役所庁舎内掲示板を通じてのPRやイベント等に積極的に参加しました。ウイルス感染症により、販売を中止した月もありましたが、四季の森公園での販売が広く周知されてきたこともあり、販売台数は410台（前年比15台増）となりました。

イ. 各種教室（講座）事業

講 座 名	対 象	会 場	受講者数
学習教室	小・中学生 (小学生3～6年生/中学生1～3年生)	南部・北部分室	32人
暮らしの書道	社会人	南部・北部分室	37人
英会話教室	社会人	南部・北部・江古田分室	91人
万葉集講座	社会人	北部分室	30人
パソコン教室	社会人	南部・北部・江古田分室	742人

4 就業相談と各種研修の充実〔定款第4条2号及び4号事業〕

(1) 就業相談の充実

事務局内において、来所者（会員及び区民）に対し就業相談を随時実施しました。
また、会員懇談会の際にも就業相談を適宜実施しました。

(2) 新規会員の登録と研修の充実

- ① 会員の入会登録時に、センター事業の特色や仕事内容、シルバー事業がサービス業であることを前提として、就業時の仕事態度や接客マナー、報告書の書き方等の説明を行うとともに、適正就業や地域班活動への参加などに役立つよう、入会相談の充実を図りました。
- ② 会員の入会登録時及び会員懇談会等の際に、仕事に対する知識とセンター会員としての意識啓発をはじめ、仲間づくりや社会奉仕活動への参加を高めるための導入研修を実施しました。

《新入会員研修》 出席者数 267人 / 登録者数 164人

◇月3回開催 2月

◇月2回開催 4月～1月、3月

※2月（1回）南中野区民活動センター開催

(3) 接客術向上及び各種研修・講習

ア.自主研修・講習

*（ ）内は実施回数

①初心者向けパソコン・スマホ講習会 （区民対象 / 区との共催）	4・8・10・11・1月 (27回)	221名参加
②植木班技能向上研修	5・3月(2回)	42名参加
③家事援助サービス新人就業会員研修	5月(1回)	11名参加
④除草班新人研修(座学・実技)	6・10月(2回)	7名参加
⑤児童見守り業務交通安全講習会	8月(1回)	63名参加
⑥表具班「ふすま・障子はり講習会」(区民対象)	9月(1回)	13名参加
⑦家事援助サービス安全研修	9月(2回)	62名参加
⑧家事援助サービス調理研修	10月(1回)	22名参加
⑨駐輪場管理者「個人情報等に関する研修」	11月(2回)	86名参加
⑩暮らしのサポート隊清掃研修	2月(2回)	13名参加

イ.東京しごと財団主催の研修・講習

①安全就業研修会(危険予知活動)	4月(1回)	1名参加
②役員研修「決算監査と監事の役割」	4月(1回)	2名参加
③植木の基礎(除草と刈込み)	5月(1回)	1名参加
④ハウスクリーニングⅡ(第1回)	5月(1回)	1名参加
⑤植木の剪定講習(初級)	6月(1回)	1名参加
⑥毛筆筆耕講習(宛名書き)	7月(1回)	2名参加
⑦育児支援サービス(保育補助)	7月(2回)	13名参加
⑧新任理事研修	7月(1回)	5名参加
⑨サービス分野リーダー養成講習①	8月(1回)	1名参加
⑩ハウスクリーニングⅡ(第2回)	10月(1回)	1名参加
⑪新任理事長(会長)研修	10月(1回)	1名参加

ウ.第3ブロック主催の研修・講習

- | | | |
|---------------------------------------|---------|-------|
| ①第3ブロック安全就業研修 | 9月(1回) | 11名参加 |
| ②第3ブロック代表理事等会議
「独自事業の現状・課題について」 | 11月(1回) | 2名参加 |
| ③第3ブロック役員研修「食と健康について」 | 2月(1回) | 9名参加 |
| ④第3ブロック会員研修
「就業における法令遵守及び非行防止について」 | 2月(1回) | 10名参加 |

エ.その他の研修・講習

- ①中野区社会福祉協議会 7月～9月(5講座) 8名参加
「介護予防・生活支援サービス担い手養成講座」11月～1月(3講座) 4名参加

(4) 調査研究

- ① 他センターの先進事例等を調査し、優れた事案については当センターにも取り入れ、理事会の経営力を高めることによりセンターの円滑な運営に努めました。
- ② より良いサービスの提供を目指し、発注者へのアンケート調査を実施しました。その結果を精査・分析し、今後のセンター運営に役立てるよう努めました。

5 適正就業の取組み〔定款第4条4号及び5号事業〕

法令を遵守した適正就業対策の強化を目指し、これまでの自主点検や東京しごと財団の指導等を踏まえ、請負契約内容の確認・調査、契約書や仕様書の整備、就業期間の設定基準の見直しを行うなど、適正就業の改善に取り組みました。

センターとしては、会員へ1件でも多くの就業機会を提供できるよう、お客様へ適正就業の趣旨を十分に説明し、請負契約が成立するよう努めました。

また、新たに開始したシルバー派遣事業についても、法令遵守及び適正就業を念頭において事業を推進しました。

6 シルバー派遣事業の着実な推進に向けて〔定款第4条1号及び5号事業〕

シルバー派遣事業については、高齢者である会員の皆さんの知識や経験等をさらに生かし、請負というこれまでの会員就業の枠組みに加え、多様な就業機会を提供するための事業です。令和2年3月末の時点では、東京58センターのうち53センターにおいて、派遣事業の実施もしくは派遣事業所が開設されています。

平成29年4月1日に、派遣事業所(東京しごと財団派遣事業所)を開設した当センターの派遣事業は3年目を迎えました。

平成30年から開始しました保育補助については、当初、保育園8園で子どもの遊び相手、身の回りの世話、散歩の付き添い、給食介助・あと片付け、掃除・洗濯等の業務にあたりました。

一般的に保育補助人材の確保が難しいとされる中で、養育経験等のある会員の協力により、令和2年3月時点で14園、就業実人員62人、契約金額30,941,232円と、昨年度を約215万円上回る実績をあげることができました。

また、公共関係、区内の大学及び事業所等に対し、事務系職種など新たな会員就労機会の確保を図るべく提案・協議に努めました。

7 安全就業対策等の推進〔定款第4条4号及び5号事業〕

高齢者の就業においては「安全就業」が最優先であり、安全就業対策の取り組みとその実践が重要です。

ここ数年、安全管理委員会では安全パトロールの回数を増やし、様々な職群から委嘱されている委員の多様な視点から就業現場を十分確認しつつ、安全就業対策を継続してきました。

しかしながら、事故件数は昨年度の27件と同数の27件（傷害事故18件、賠償事故9件）となり、傷害事故は昨年度21件から3件減の18件となったものの、賠償事故が3件増える結果となりました。

（1）安全就業の徹底

- ① 新入会員へ「安全就業の心得」及び「会員の安全就業基準」を配付、また、「シルバーなかの」「シルバー速報」のほぼ毎号に安全に関する記事を掲載し、安全への意識を高めることに努めました。
- ② 安全管理委員会を年4回開催し、安全就業パトロールについては委員会の開催時期にあわせて実施しました。委員会開催の数日前にパトロールすることにより、就業現場のタイムリーな状況について話し合うことができ、より活発に委員会を運営することができました。

また、8月には東京しごと財団の安全就業パトロール指導員とともに、就業現場を視察し、事故原因などを分析して事故発生の防止に取り組みました。

- ③ 地域班・職群班会議では、事故発生状況などをできるだけ詳細に説明し、事故に関する情報共有のもと安全意識の喚起に努めました。

（2）事故防止対策

- ① 安全保護具（ヘルメットや安全ベルト）の着用徹底を図りました。
- ② 熱中症対策として、機関紙等を通じ炎天下や非常に暑い場所での長時間作業を避けることや、水分を十分に補給するなど、注意・喚起に努めました。また、クールネックを屋外業務の就業会員を中心に配付し、予防に努めました。
- ③ 作業用の道具や器具等の安全点検を実施し、事故の未然防止に努めました。
- ④ 安全就業パトロール指導員による作業現場の巡回指導を実施し、現場での直接指導や説明により安全就業の徹底を図りました。
- ⑤ 安全管理委員によるパトロールでは、事故の未然防止対策として行うKYK（危険予知活動）や、その訓練として行うKYT（危険予知トレーニング）を、現場で直接就業会員に周知し、委員と就業会員が現場で一緒に実践することで、その普及に努めました。さらに、一人現場やパトロールに行けない個人宅の現場で就業している会員のため、自己チェックシートを作成・配布し、一人でも多くの方にKYKを実施してもらうよう周知に努めました。
- ⑥ 就業途上の交通事故対策として実施している、安全管理委員会主催の交通安全・防犯講習会を、通学路児童見守り業務の就業会員向けに実施しました。就業途上のみならず、道路上で児童を見守る業務に特有の注意事項や、高齢者・児童に関する事故事例を中心に、中野警察署交通課の方に講習していただき事故防止に努めました。
- ⑦ 出かける前や就業前の準備として、十分に体をほぐし、安全意識を高め事故の未然防止対策として考案した「シルバー体操」を、職群班会議や研修、安全管理委員会等の開催時に全員で行うなど、その普及に努めました。

(3) 健康管理

- ① 生活習慣病健康診断の受診を推奨しました。
- ② 熱中症対策・予防や蜂さされなど、季節に応じた健康管理について、各種会議や機関紙等により周知・喚起しました。

8 地域班活動について〔定款第4条3号及び5号事業〕

センターは「自主・自立」「共働・共助」の基本理念に基づき、会員自らが自主的・主体的な組織運営を行い、会員同士が助け合う共働・共助を特徴とする団体です。

また、センター事業が地域社会に理解・評価され、具体的な形で地域社会に貢献することは、センターの発展のために不可欠なことです。そのため、居住単位での地域班によるクリーンキャンペーンや、道路清掃等の社会貢献活動が地域社会の理解を得る上で効果的であり、地域班の会員一人ひとりが地域班活動の意義を理解し、継続的に実践することが重要です。

令和元年度においても、各班の班長・副班長・連絡員等の役員が中心となり、班単位またはブロック単位で、年2回の会員懇談会のほか、ボランティア、各種講習、親睦・交流会、「班だより」の発行等の様々な活動が実施され、会員同士の連帯感の醸成と会員相互の交流を促進することができました。こうした活動を踏まえ、各班の活動状況について機関紙等に掲載するなど適宜情報提供に努めました。

また、商店街でのPR活動の際に、地元の地域班会員の方々にご協力いただきました。

9 ボランティア活動状況〔定款第4条3号事業〕

(1) クリーンキャンペーン（駅周辺の清掃及びポケットティッシュ配布）

5月・11月（2回） 218名参加

(2) 学習支援活動『夏休み学習教室』

8月（2回） 3名参加

(3) 区民サービス『初心者向けパソコン教室』（区との共催）

4月・8月・10月・11月・1月（27回） 81名参加

(4) 区内公園等の花壇造り及び維持・管理

原則毎週1回 8名程度で活動

（上鷺宮地域）

(5) 松が丘・上高田・新井地区の地域団体主催のマナーキャンペーン

6月・11月（2回） 10名参加

IV 公益社団法人として

センターは、社会参加の意欲ある健康な60歳以上の高齢者に対し、知識及び経験等に応じた就業機会を確保し、高齢者の能力を生かした活力ある地域社会づくりに寄与することを目的としています。身近な地域での就業を通じ、高齢者の社会参加の場を提供するセンターの取り組みが公益社団法人として認定されたものです。

令和元年度は公益社団法人として9年目の運営となりました。景気は緩やかな回復傾向にあったものの、年度末にかけては新型コロナウイルス感染症の影響により、入会登録説明会もやむを得ず中止にするなど、会員数が伸び悩んでいたセンター運営にとって、

更に厳しい状況となりました。

その中でセンターとしては、お客様や会員の様々なニーズに応えるべく、可能な限り努めた結果、事業実績は年度当初に掲げた目標を上回り、達成することができました。

事業報告の附属明細書

令和元年度 事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条 第3項に規定する附属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。

公益社団法人 中野区シルバー人材センター
会 長 田 中 正 彦